

## 景気動向指数の改善に向けた採用系列検討結果(中間報告)

## 参考図表

## 1. 先行指数

図表 1	CI先行指数の動き	3
図表 2	個別系列の動き(L3新規求人数(除学卒))	3
図表 3	個別系列の動き(L4実質機械受注(船舶・電力を除く民需))	4
図表 4	個別系列の動き(L8長短金利差)	5
図表 5	「L8長短金利差」とCI先行指数の動き	6
図表 6	代替候補指標の動き(新規求人数(パート))	7
図表 7	代替候補指標の動き(実質機械受注(船舶を除く製造業))	8
図表 8	代替候補指標の動き(マネーストック(M2 前年同月比))	9
図表 9	代替候補指標の動き(マネーストック(M2 季調値 前月比))	10
図表 10	代替候補指標の動き(景気ウォッチャー調査(先行き判断DI))	11
図表 11	個別系列の入替(L4→実質機械受注(製造業))	12
図表 12	個別系列の入替(L8→マネーストック(M2 前年同月比))	13
図表 13	サーベイ調査の追加(景気ウォッチャー調査(先行き判断DI))	14
図表 14	複数系列の入替(L4、L8)	15
図表 15	複数系列の入替(L3、L4、L8)	16
図表 16	複数系列の入替(L4、L8)+サーベイ調査の追加	17
図表 17	複数系列の入替(L3、L4、L8)+サーベイ調査の追加	18

## 2. 一致指数

図表 18	個別系列の動き(C3大口電力使用量)	20
図表 19	「C3大口電力使用量」とCI一致指数の動き	21
図表 20	個別系列の動き(C11 有効求人倍率(除学卒))	22
図表 21	代替候補指標の動き(稼働率指数)	23
図表 22	代替候補指標の動き(企業向けサービス価格指数(前年同月比))	24
図表 23	代替候補指標の動き(実質輸出(季調値))	25
図表 24	個別系列の入替(C3→稼働率指数)	26
図表 25	個別系列の入替(C3→企業向けサービス価格指数(前年同月比))	28
図表 26	個別系列の入替(C3→実質輸出(季調値))	30
図表 27	1系列の除外(C3大口電力使用量)	32
図表 28	2系列の除外(C3大口電力使用量、C4耐久消費財出荷指数)	34

## 3. 遅行指数

図表 29	CI遅行指数の動き	36
-------	-----------	----

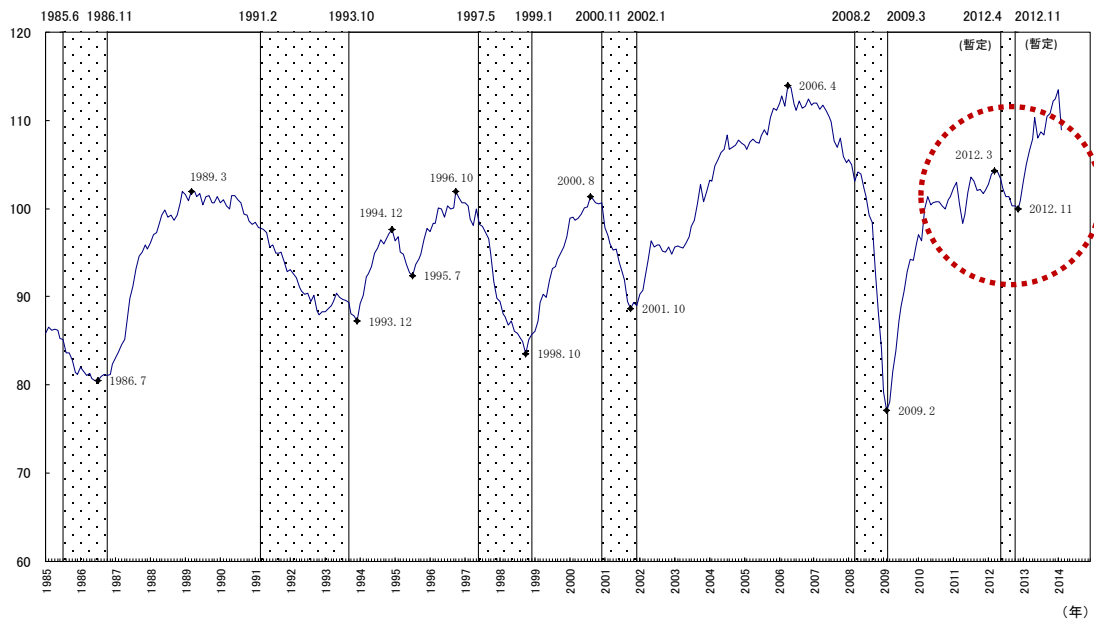
図表 30	個別系列の動き(Lg4家計消費支出(全国勤労者世帯、名目、前年同月比))	36
図表 31	個別系列の動き(Lg6完全失業率(逆サイクル))	37
図表 32	代替候補指標の動き(家計消費支出(全国二人以上の世帯、名目、前年同月比))	38
図表 33	代替候補指標の動き(最終需要財在庫指数)	39
図表 34	代替候補指標の動き(きまって支給する給与(調査産業計、季調値、30人以上))	40
図表 35	代替候補指標の動き(消費者物価指数(食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合))	41
図表 36	個別系列の入替(Lg4→家計消費支出(全国二人以上の世帯、名目、前年同月比))	42
図表 37	個別系列の追加(きまって支給する給与)	43
図表 38	個別系列の追加(最終需要財在庫指数)	44
図表 39	3系列の追加(賃金関連、在庫関連、物価関連)	45
図表 40	1系列入替(Lg4→全国二人以上の世帯、名目、前年同月比)) +3系列の追加(賃金関連、在庫関連、物価関連)	46

注)平成 26(2014)年 2 月改訂分までのデータを用いて作成している。

# 1. 先行指数

## (1) 先行指数の課題

図表1 C I 先行指数の動き

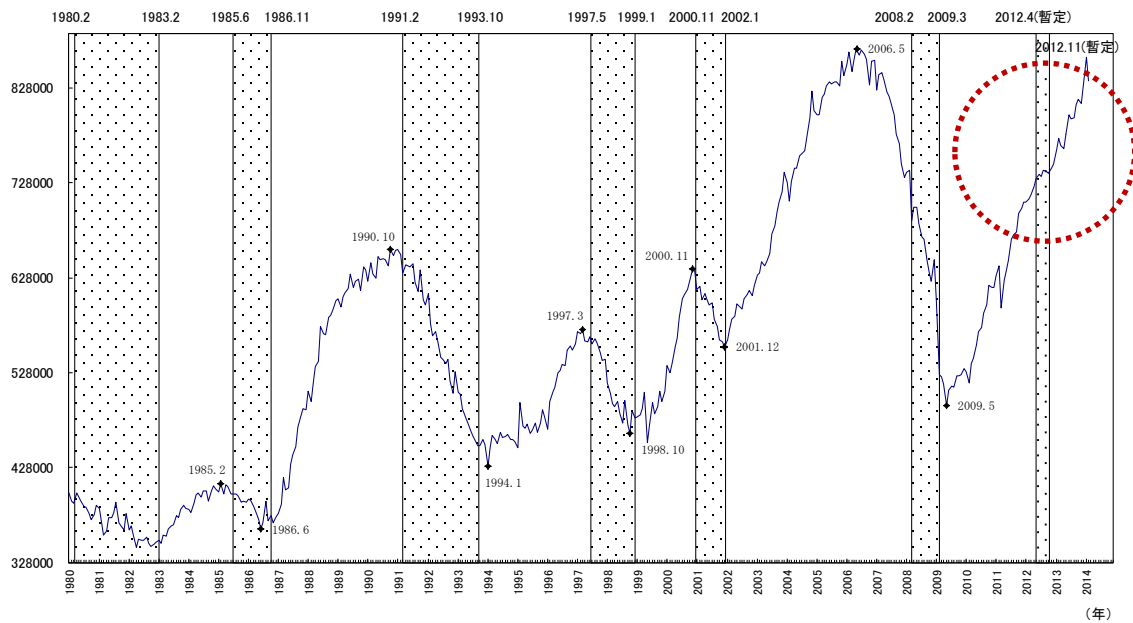


- ◇ 第15循環において暫定山に対する明確な先行性がみられない。
- ◇ 先行のタイミングが不安定であり、景気の谷に対する先行期間が短い。

## (2) 現行採用系列のパフォーマンス

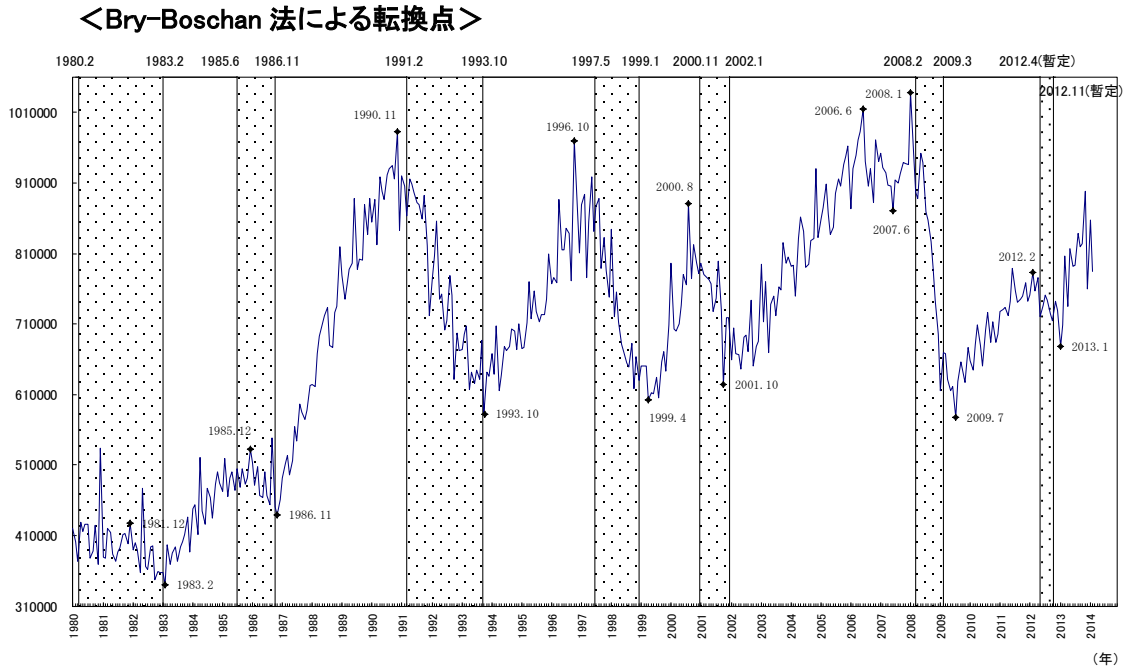
図表2 個別系列の動き (L3新規求人数 (除学卒))

<Bry-Boschan 法による転換点>

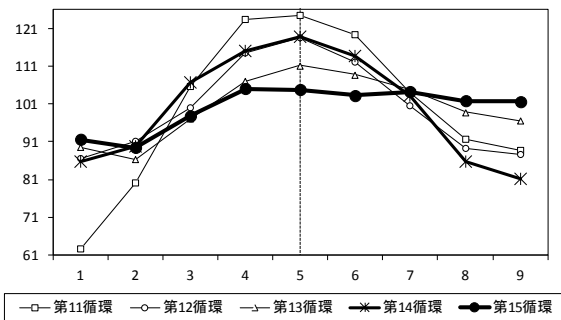


- ◇ 第15循環において対応する転換点がみられない。

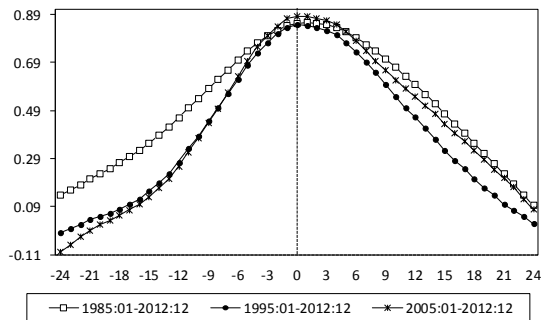
図表3 個別系列の動き（L4実質機械受注（船舶・電力を除く民需））



**<各循環におけるパターン分析>**



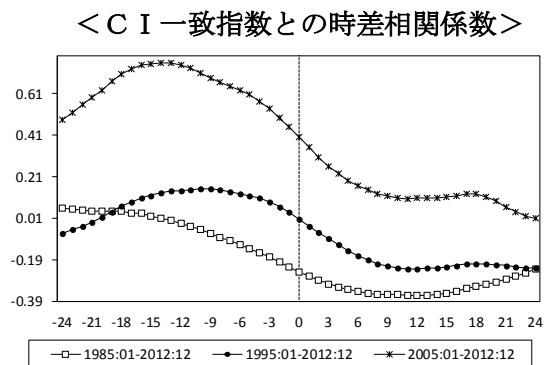
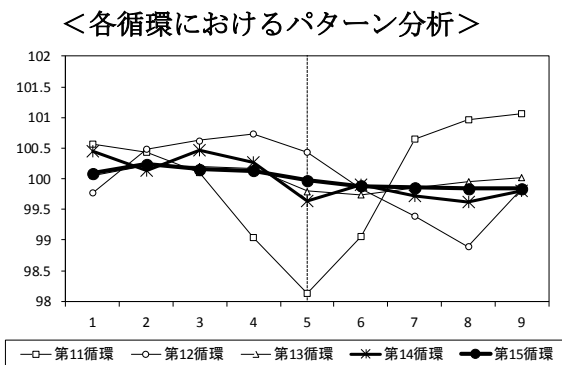
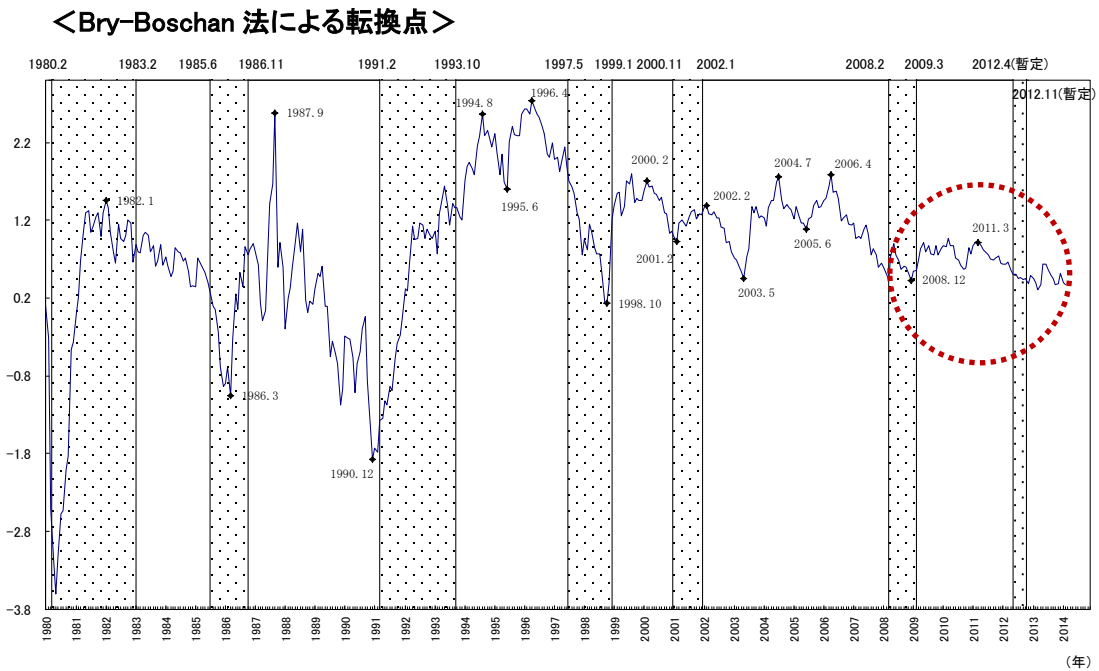
**<CI一致指数との時差相関係数>**



循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
一致	1985-2012:+1 1995-2012:0 2005-2012:0	第9~15循環:+1 第12~15循環:+1	5

- ◇ 景気の谷に対する先行性が乏しい。
- ◇ パターン分析、時差相関係数からは循環のタイミングは一致系列に近い。

図表4 個別系列の動き (L 8長短金利差)



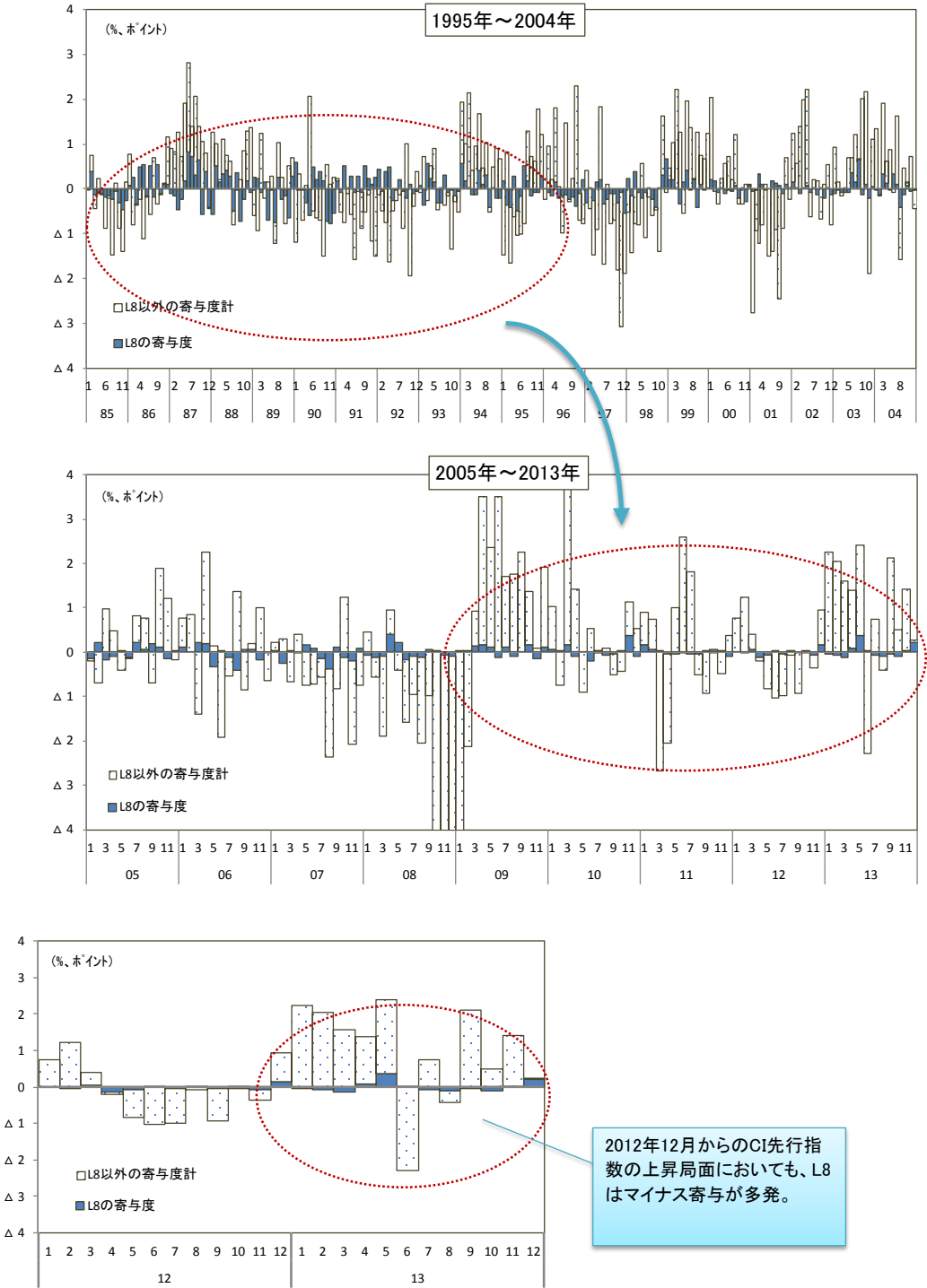
循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
先行	1985-2012: × 1995-2012: -10 2005-2012: -13	第9～15循環: +2 第12～15循環: +2	3

◇ パターン分析、時差相関係数からは先行性がうかがえる。  
 ◇ ただし、リーマンショック以降、ゼロ金利政策再開等を背景に変動が小さくなっている。  
 ◇ 足元でのCI先行指数への寄与の低下、CI先行指数との符号の不一致がみられる(次ページ参照)。

図表5 「L8長短金利差」とCI先行指数の動き

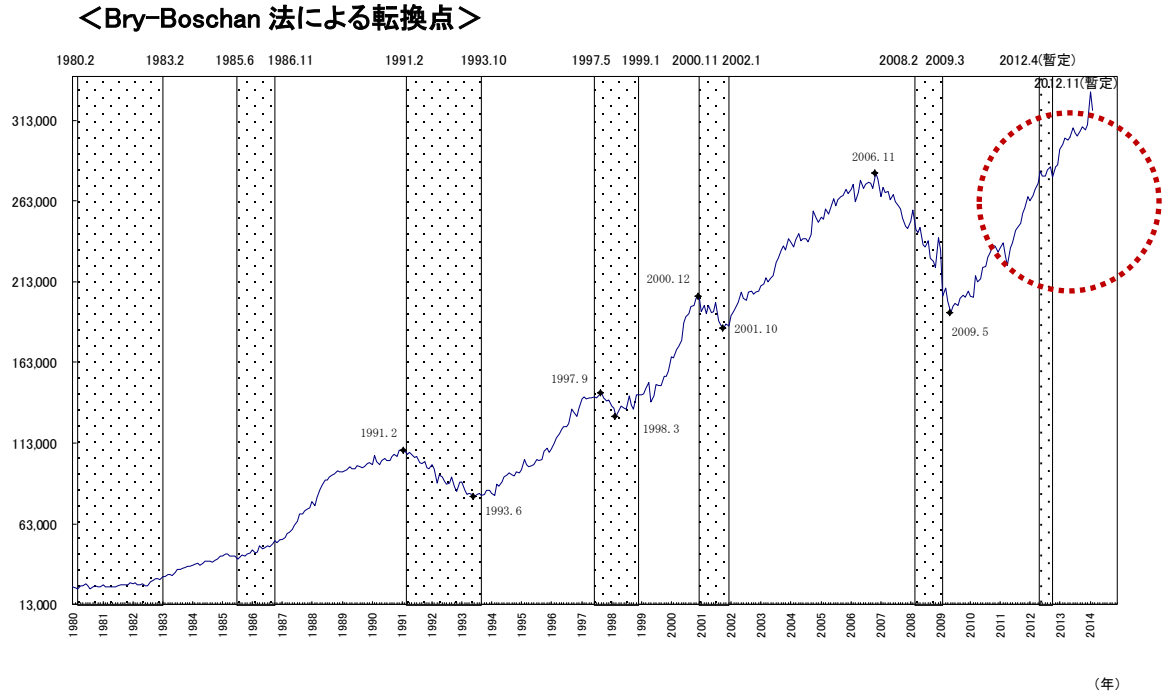
「L8長短金利差」は、2000年以降、CI先行指数に対する寄与が大きく低下。特に2008年のリーマンショック以降は寄与が非常に小さい。また、2012年12月以降のCI先行指数の上昇局面においては、L8がマイナス寄与となる月が多くなっており、解釈が難しくなっている。

CI先行指数の前月差に対する「L8長短金利差」の寄与度

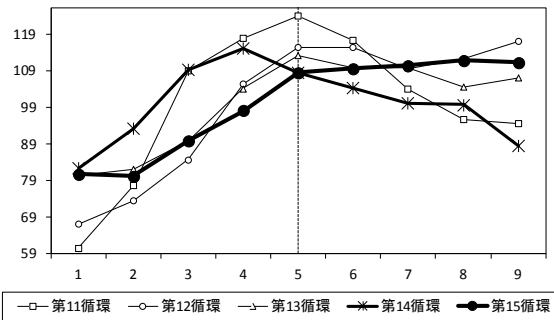


## (2) 代替候補指標のパフォーマンス

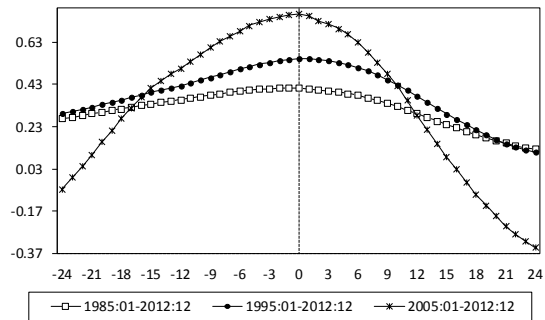
図表6 代替候補指標の動き（新規求人数（季調値 パート））



### ＜各循環におけるパターン分析＞



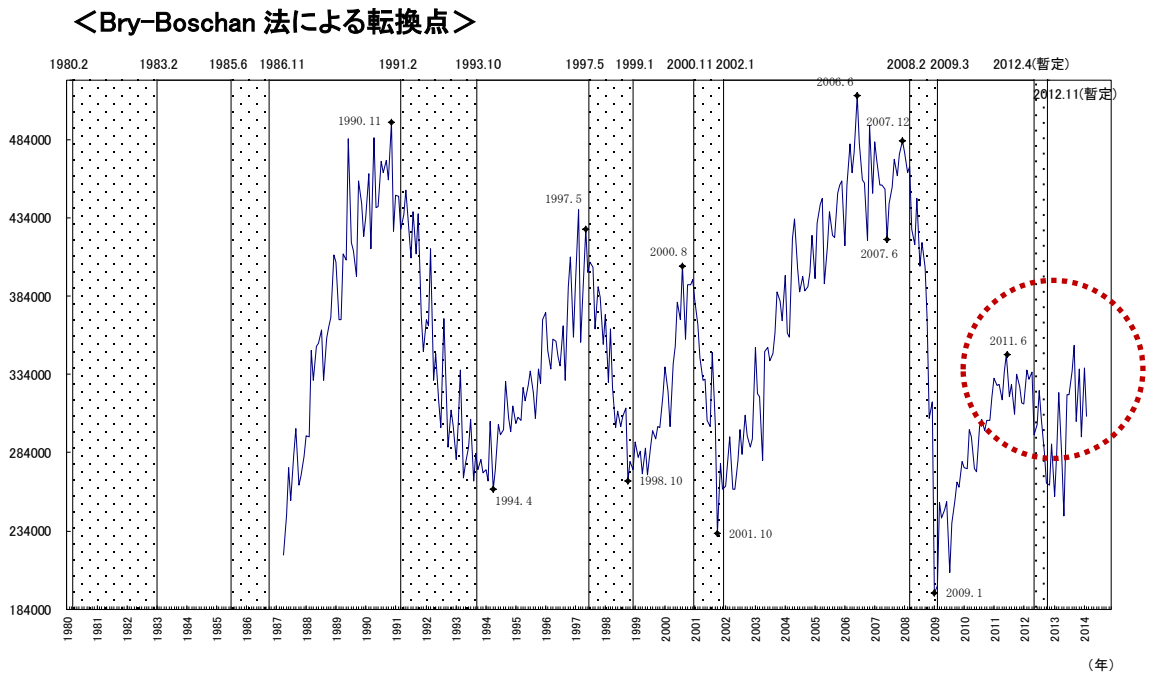
### ＜C I 一致指数との時差相関係数＞



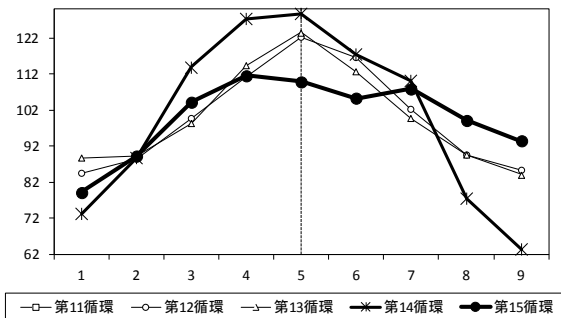
循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
先行	1985-2012:-1	第9～15循環:-3 第12～15循環:-1	2
	1995-2012:0		
	2005-2012:0		

- ◇ パフォーマンスに大きな変化はみられない。
- ◇ 第15循環の暫定山以降、低下する動きもみられるが転換点は見つからない。

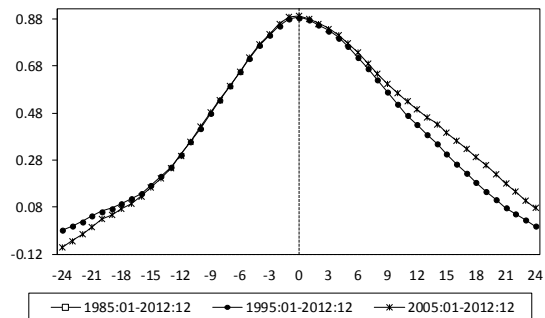
図表7 代替候補指標の動き（実質機械受注（船舶を除く製造業））



＜各循環におけるパターン分析＞



＜C I 一致指数との時差相関係数＞

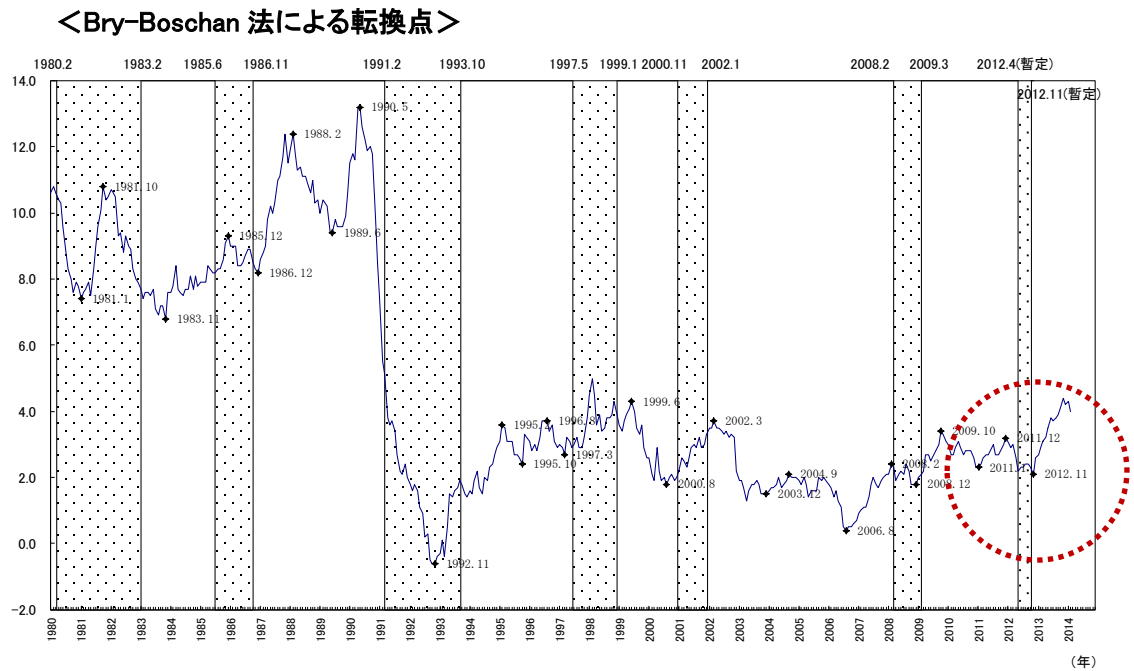


循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
先行	1985-2012: × 1995-2012: 0 2005-2012: 0	第9～15循環: - 第12～15循環: +1	4

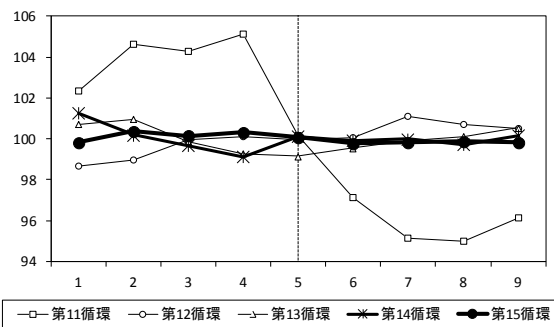
◇ 現行採用系列の産業計ベースよりも、先行性がより明確になる。



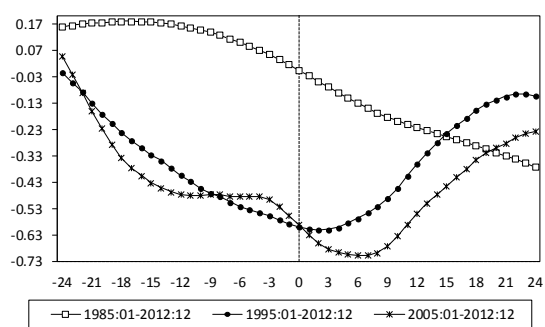
図表8 代替候補指標の動き（マネースtock（M2 前年同月比））



<各循環におけるパターン分析>



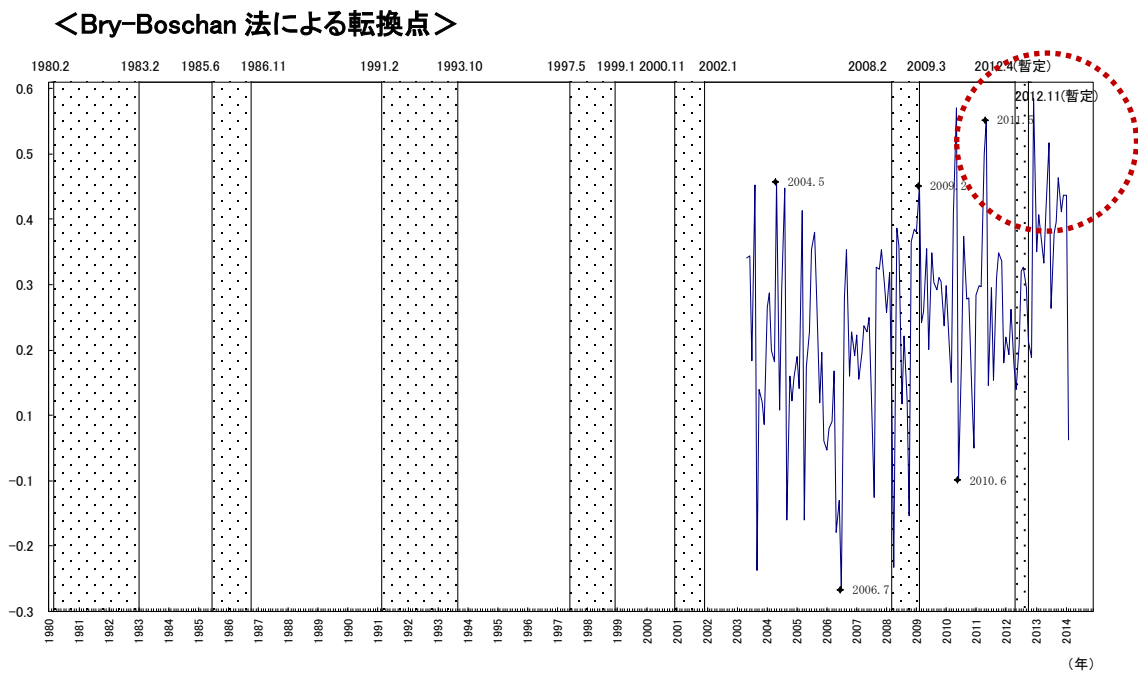
<CI一致指数との時差相関係数>



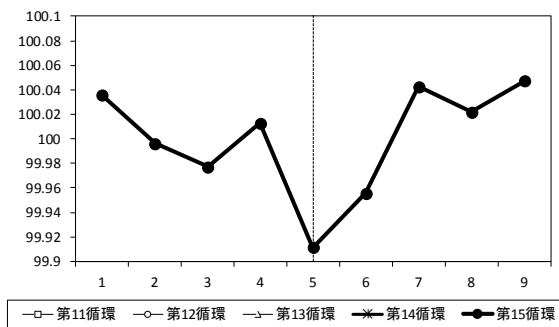
循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
先行	1985-2012: -18 1995-2012: × 2005-2012: ×	第9~15循環: +5 第12~15循環: +3	2

◇ 明確な先行性はみられないが、第15循環の暫定山に対応する転換点(平成23(2011)年12月)には先行性がみられる。

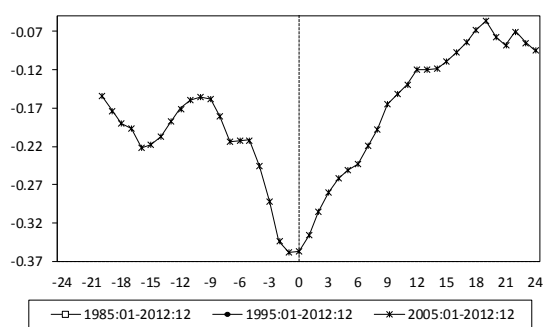
図表9 代替候補指標の動き（マネースtock（M2 季調値 前月比））



＜各循環におけるパターン分析＞



＜C I 一致指数との時差相関係数＞

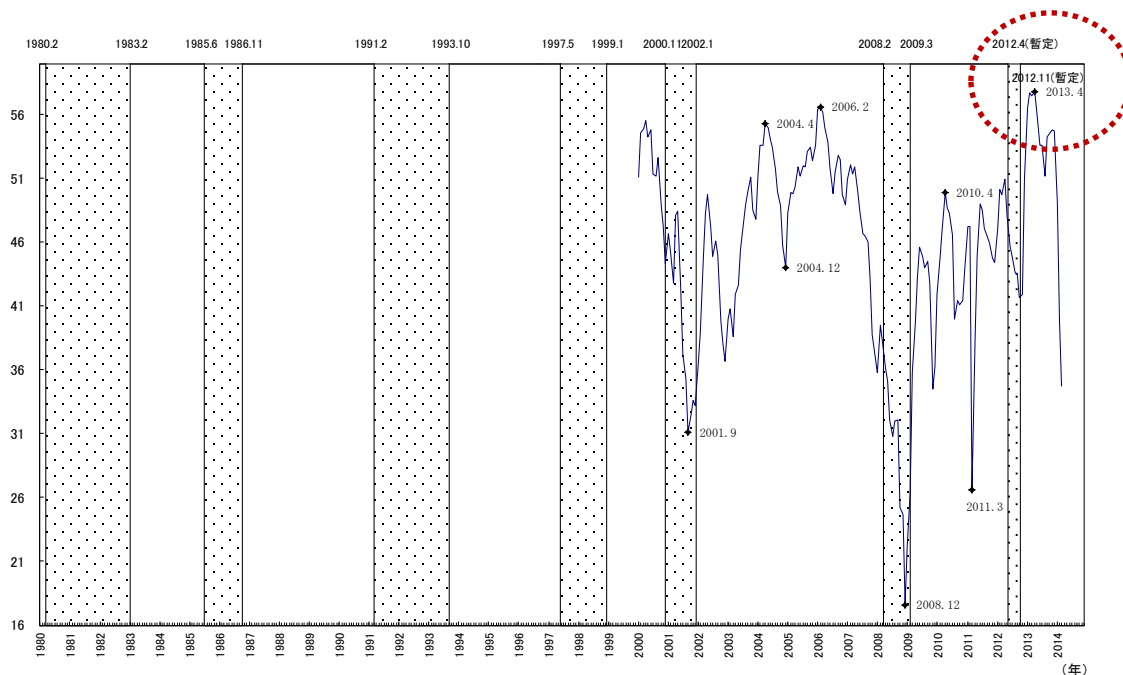


循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
×	1985-2012: × 1995-2012: × 2005-2012: ×	第9～15循環: - 第12～15循環: +1	9

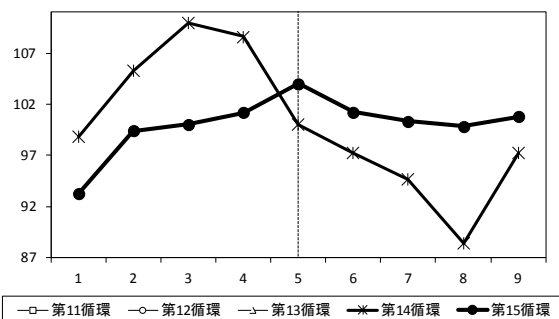
◇ 平滑度にか、明確な先行性はみられない。

図表 10 代替候補指標の動き（景気ウォッチャー調査（先行き判断D I））

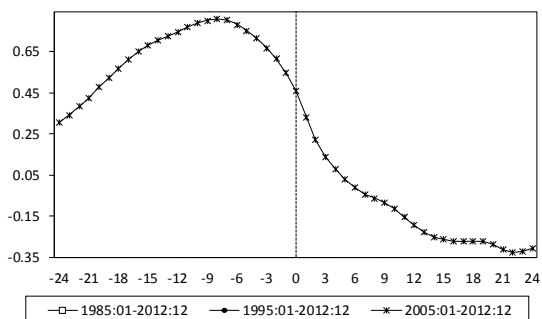
<Bry-Boschan 法による転換点>



<各循環におけるパターン分析>



<C I 一致指数との時差相関係数>



循環のタイミング		景気循環との対応性	平滑度(MCDスパン)
パターン分析	時差相関係数		
一致	1985-2012: × 1995-2012: × 2005-2012: -8	第9~15循環:- 第12~15循環:+2	3

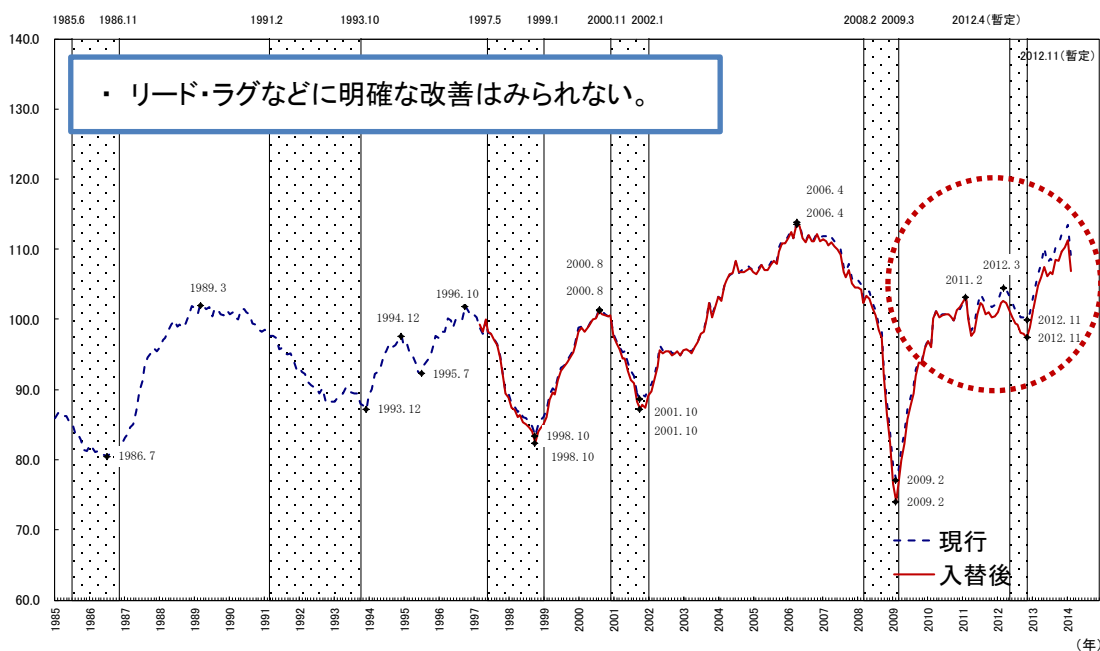
◇ 第 13 循環の谷（平成 14(2002)年 1 月）及び第 14 循環においては先行性がみられたが、第 15 循環では明確な先行性はみられない。

### (3) 系列入れ替え後のパフォーマンス

図表 11 個別系列の入替 (L 4 → 実質機械受注 (船舶を除く製造業))

現行	入替後
L4 実質機械受注 (船舶・電力を除く民需)	L4 実質機械受注 (船舶除く 製造業)

#### <Bry-Boschan 法による転換点>



#### <現行と入替後 CI のリード・ラグ>

##### 山に対して

景気基準日付	転換点		リード・ラグ月数		不規則変動月数	
	現行	入替後	現行	入替後	現行	入替後
1991.2	1989.3	-	-23	-	11	-
1997.5	1996.10	-	-7	-	13	-
2000.11	2000.8	2000.8	-3	-3	4	4
2008.2	2006.4	2006.4	-22	-22	24	25
2012.4	2012.3	2011.2	-1	-14	13	14
平均 (直近3循環)			-8.7	-13.0		

##### 谷に対して

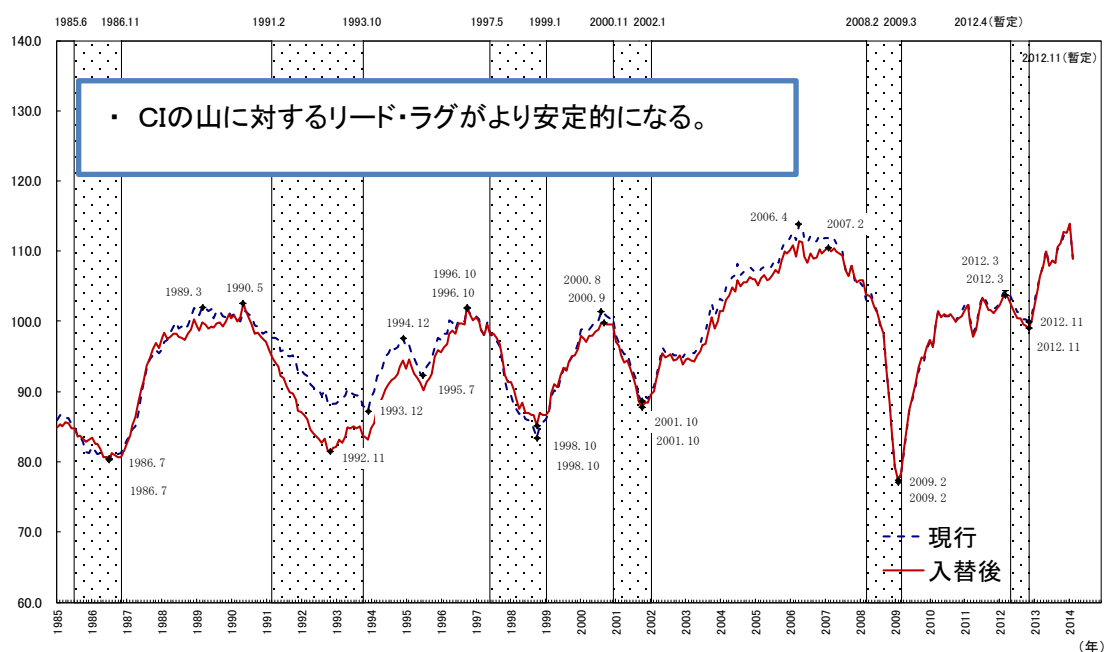
景気基準日付	転換点		リード・ラグ月数		不規則変動月数	
	現行	入替後	現行	入替後	現行	入替後
1993.10	1993.12	-	2	-	3	-
1999.1	1998.10	1998.10	-3	-3	1	-
2002.1	2001.10	2001.10	-3	-3	5	5
2009.3	2009.2	2009.2	-1	-1	0	0
2012.11	2012.11	2012.11	0	0	4	3
平均 (直近4循環)			-1.8	-1.8		

- (備考) 1. 第15循環の山(2012年4月)、谷(2012年11月)は暫定。  
 2. タイミングのマイナスは先行、プラスは遅行を表す。  
 3. CIのタイミングの判定はBry-Boschan法による。  
 4. CIにおける不規則変動は、後退(拡張)期間において、3ヶ月移動平均が前月より上昇(低下)している動きをいう。  
 5. 不規則変動月数は、CI先行指数が6ヶ月先行しているものとして計算した。  
 6. リード・ラグ月数の平均は、現行と入替後が比較可能な期間において計算した。

図表 12 個別系列の入替 (L 8 長短金利差)

現行	入替後
L8 長短金利差	L8 マネーストックM2(前年同月比)

<Bry-Boschan 法による転換点>



<現行と入替後 CI のリード・ラグ>

山に対して

景気基準日付	転換点		リード・ラグ月数		不規則変動月数	
	現行	入替後	現行	入替後	現行	入替後
1991.2	1989.3	1990.5	-23	-9	11	12
1997.5	1996.10	1996.10	-7	-7	13	10
2000.11	2000.8	2000.9	-3	-2	4	4
2008.2	2006.4	2007.2	-22	-12	24	24
2012.4	2012.3	2012.3	-1	-1	13	14
	平均		-11.2	-6.2		

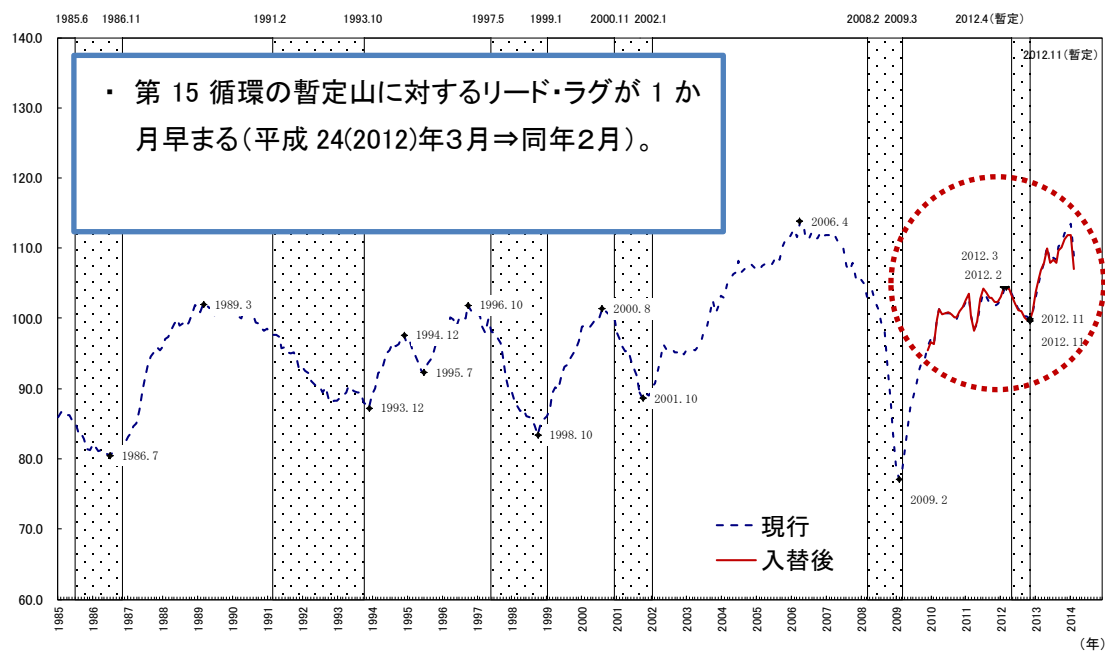
谷に対して

景気基準日付	転換点		リード・ラグ月数		不規則変動月数	
	現行	入替後	現行	入替後	現行	入替後
1993.10	1993.12	1992.11	2	-11	3	4
1999.1	1998.10	1998.10	-3	-3	1	1
2002.1	2001.10	2001.10	-3	-3	5	5
2009.3	2009.2	2009.2	-1	-1	0	0
2012.11	2012.11	2012.11	0	0	4	5
	平均		-1.0	-3.6		

図表 13 サーベイ調査の追加（景気ウォッチャー調査（先行き判断DI））

現行	入替後
(新規追加)	L12 景気ウォッチャー調査 (先行き判断DI)

<Bry-Boschan 法による転換点>



<現行と入替後 CI のリード・ラグ>

山に対して

景気基準日付	転換点		リード・ラグ月数		不規則変動月数	
	現行	入替後	現行	入替後	現行	入替後
1991.2	1989.3	—	-23	—	11	—
1997.5	1996.10	—	-7	—	13	—
2000.11	2000.8	—	-3	—	4	—
2008.2	2006.4	—	-22	—	24	—
2012.4	2012.3	2012.2	-1	-2	13	—
	平均(直近1循環)		-1	-2		

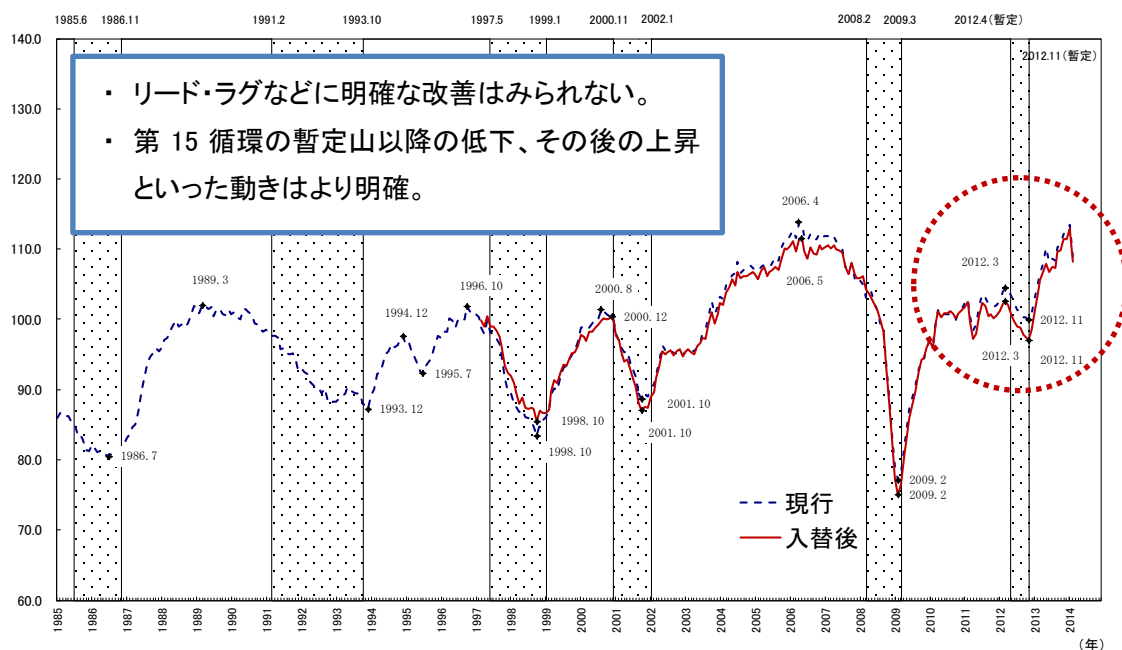
谷に対して

景気基準日付	転換点		リード・ラグ月数		不規則変動月数	
	現行	入替後	現行	入替後	現行	入替後
1993.10	1993.12	—	2	—	3	—
1999.1	1998.10	—	-3	—	1	—
2002.1	2001.10	—	-3	—	5	—
2009.3	2009.2	—	-1	—	0	—
2012.11	2012.11	2012.11	0	0	4	4
	平均(直近1循環)		0	0		

図表 14 複数系列の入替 (L4、L8)

現行	入替後
L4 実質機械受注 (船舶・電力を除く民需)	L4 実質機械受注 (船舶を除く製造業)
L8 長短金利差	L8 マネーストックM2(前年同月比)

<Bry-Boschan 法による転換点>



- ・ リード・ラグなどに明確な改善はみられない。
- ・ 第 15 循環の暫定山以降の低下、その後の上昇といった動きはより明確。

<現行と入替後 CI のリード・ラグ>

山に対して

景気基準日付	転換点		リード・ラグ月数		不規則変動月数	
	現行	入替後	現行	入替後	現行	入替後
1991.2	1989.3	-	-23	-	11	-
1997.5	1996.10	-	-7	-	13	-
2000.11	2000.8	2000.12	-3	1	4	5
2008.2	2006.4	2006.5	-22	-21	24	20
2012.4	2012.3	2012.3	-1	-1	13	15
平均(直近3循環)			-8.7	-7.0		

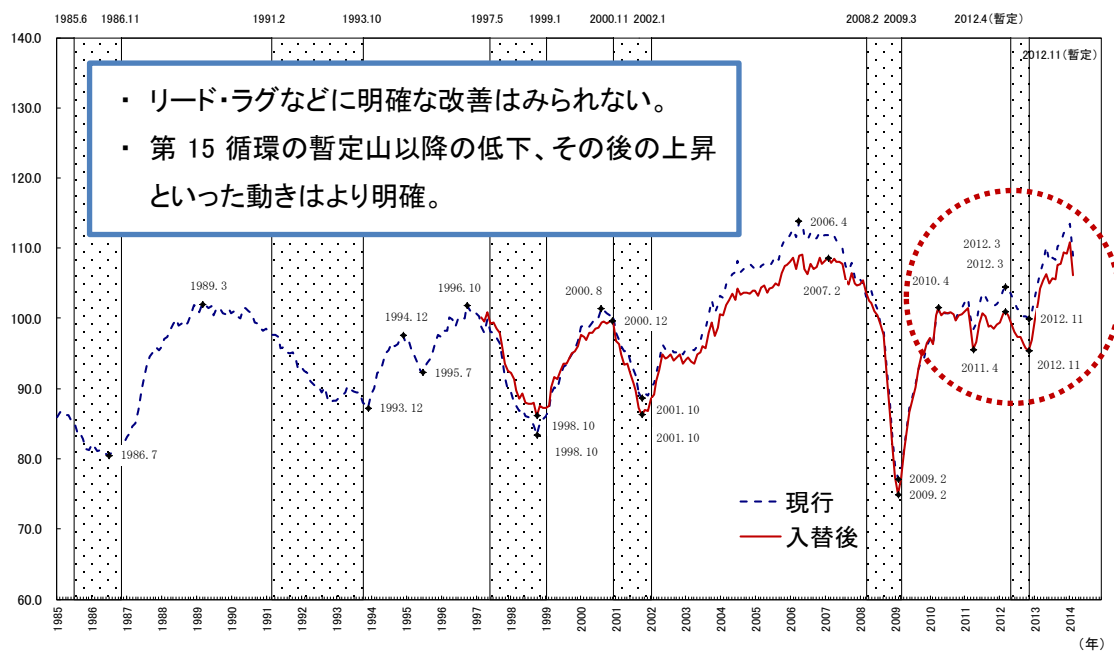
谷に対して

景気基準日付	転換点		リード・ラグ月数		不規則変動月数	
	現行	入替後	現行	入替後	現行	入替後
1993.10	1993.12	-	2	-	3	-
1999.1	1998.10	1998.10	-3	-3	1	-
2002.1	2001.10	2001.10	-3	-3	5	7
2009.3	2009.2	2009.2	-1	-1	0	0
2012.11	2012.11	2012.11	0	0	4	5
平均(直近4循環)			-1.8	-1.8		

図表 15 複数系列の入替 (L3、L4、L8)

現行	入替後
L3 新規求人数(除学卒)	L3 新規求人数(パート)
L4 実質機械受注(船舶・電力を除く民需)	L4 実質機械受注(船舶を除く製造業)
L8 長短金利差	L8 マネーストックM2(前年同月比)

<Bry-Boschan 法による転換点>



<現行と入替後 CI のリード・ラグ>

山に対して

景気基準日付	転換点		リード・ラグ月数		不規則変動月数	
	現行	入替後	現行	入替後	現行	入替後
1991.2	1989.3	-	-23	-	11	-
1997.5	1996.10	-	-7	-	13	-
2000.11	2000.8	2000.12	-3	1	4	4
2008.2	2006.4	2007.2	-22	-12	24	23
2012.4	2012.3	2012.3	-1	-1	13	15
平均(直近3循環)			-8.7	-4.0		

谷に対して

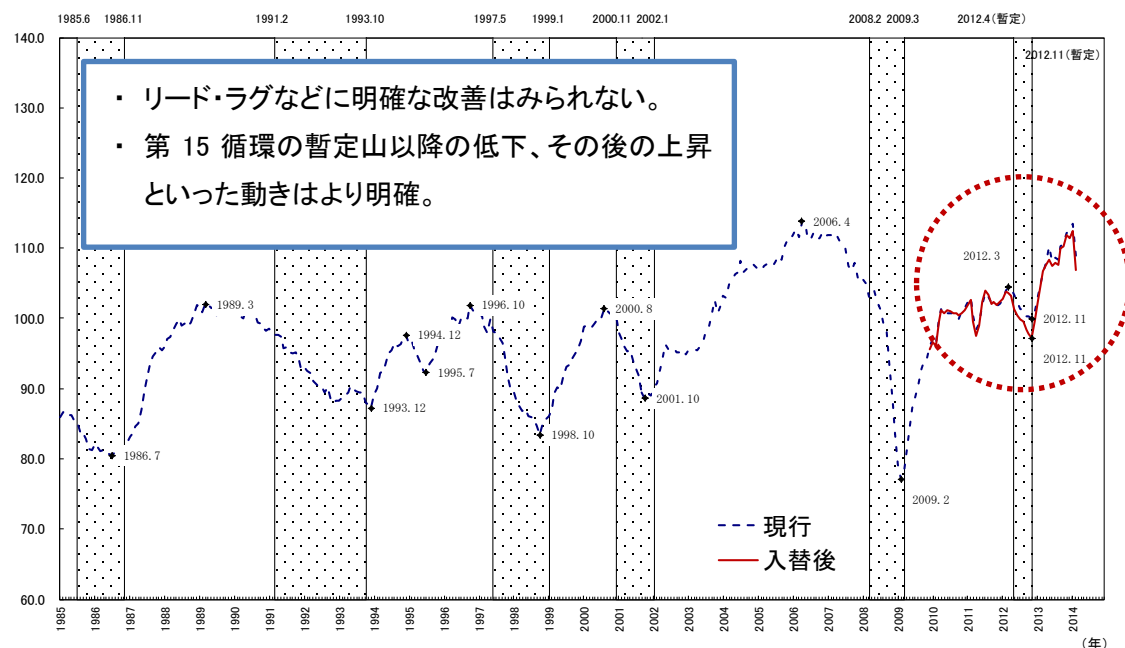
景気基準日付	転換点		リード・ラグ月数		不規則変動月数	
	現行	入替後	現行	入替後	現行	入替後
1993.10	1993.12	-	2	-	3	-
1999.1	1998.10	1998.10	-3	-3	1	-
2002.1	2001.10	2001.10	-3	-3	5	7
2009.3	2009.2	2009.2	-1	-1	0	1
2012.11	2012.11	2012.11	0	0	4	5
平均(直近4循環)			-1.8	-1.8		



図表 16 複数系列の入替 (L 4、L 8) +サーベイ調査の追加

現行	入替後
(新規追加) L4 実質機械受注(船舶・電力を除く民需) L8 長短金利差	L12 景気ウォッチャー全国(先行き判断DI) L4 実質機械受注(船舶を除く製造業) L8 マネーストックM2(前年同月比)

<Bry-Boschan 法による転換点>



<現行と入替後 CI のリード・ラグ>

山に対して

景気基準日付	転換点		リード・ラグ月数		不規則変動月数	
	現行	入替後	現行	入替後	現行	入替後
1991.2	1989.3	—	-23	—	11	—
1997.5	1996.10	—	-7	—	13	—
2000.11	2000.8	—	-3	—	4	—
2008.2	2006.4	—	-22	—	24	—
2012.4	2012.3	—	-1	—	13	—
			—	—		

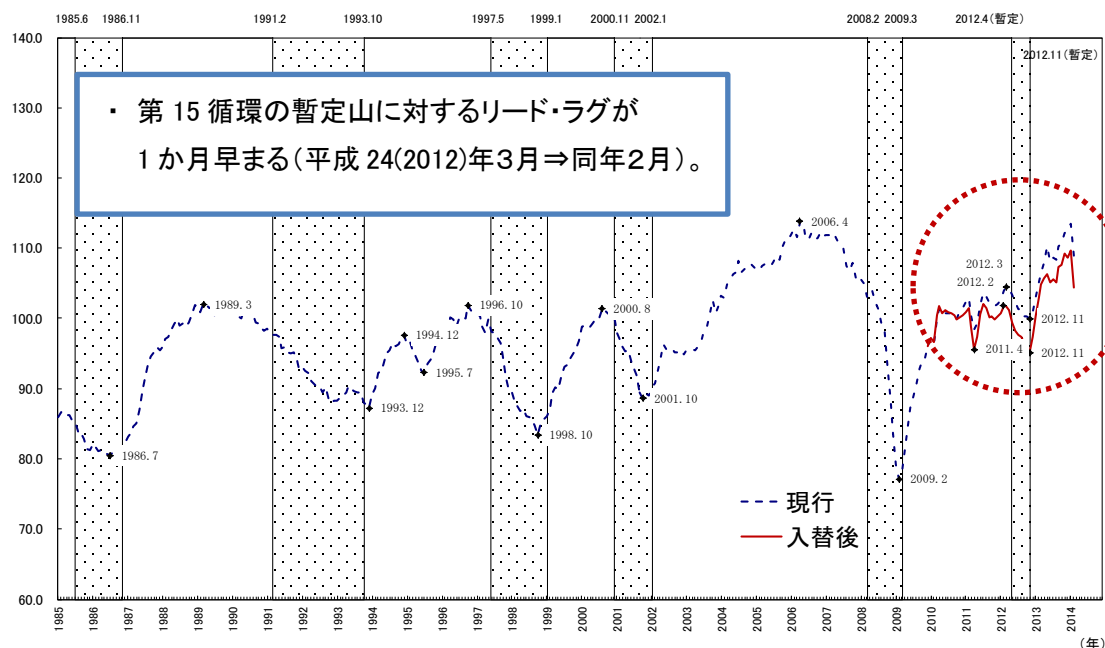
谷に対して

景気基準日付	転換点		リード・ラグ月数		不規則変動月数	
	現行	入替後	現行	入替後	現行	入替後
1993.10	1993.12	—	2	—	3	—
1999.1	1998.10	—	-3	—	1	—
2002.1	2001.10	—	-3	—	5	—
2009.3	2009.2	—	-1	—	0	—
2012.11	2012.11	2012.11	0	0	4	5
	平均(直近1循環)		0	0		

図表 17 複数系列の入替 (L 3、L 4、L 8) +サーベイ調査の追加

現行	入替後
(新規追加) L3 新規求人数(除学卒) L4 実質機械受注(船舶・電力を除く民需) L8 長短金利差	L12 景気ウォッチャー全国(先行き判断DI) L3 新規求人数(パート) L4 実質機械受注(船舶を除く製造業) L8 マネーストックM2(前年同月比)

<Bry-Boschan 法による転換点>



<現行と入替後 CI のリード・ラグ>

山に対して

景気基準日付	転換点		リード・ラグ月数		不規則変動月数	
	現行	入替後	現行	入替後	現行	入替後
1991.2	1989.3	—	-23	—	11	—
1997.5	1996.10	—	-7	—	13	—
2000.11	2000.8	—	-3	—	4	—
2008.2	2006.4	—	-22	—	24	—
2012.4	2012.3	2012.2	-1	-2	13	—
平均(直近1循環)			-1	-2		

谷に対して

景気基準日付	転換点		リード・ラグ月数		不規則変動月数	
	現行	入替後	現行	入替後	現行	入替後
1993.10	1993.12	—	2	—	3	—
1999.1	1998.10	—	-3	—	1	—
2002.1	2001.10	—	-3	—	5	—
2009.3	2009.2	—	-1	—	0	—
2012.11	2012.11	2012.11	0	0	4	5
平均(直近1循環)			0	0		

(白紙)